

徒然なる日記121022～没頭する こと～

E-book推進協会

没頭すること

時間を忘れて没頭できる何かがある人は幸せだ。その意味で自分は幸せだと思う。

ただ、その没頭できるものが人生に役立つかどうかは別問題だ。自分の場合、2つある。1つは漢字。難しい熟語や珍しい漢字を覚えることに没頭した時期がある。漢検準1級も取った。ただ、今思えばもっと違うことに時間を費やせばよかったと思うこともある。

せっかくこれほど覚えた漢字だから、いろいろ活用したいし、漢字のことで何か本でも出版しようかと思ったこともある。たとえば、1つ、2つの熟語にしか使い道がない漢字シリーズとか。身近な、よく使う漢字にも意外とある。たとえば、努力の「努」、休憩の「憩」、幹旋の「幹」、拿捕の「拿」など、ちょっと考えれば100は思いつく。こういう漢字が日本語をより複雑にするとともに、日本語を味わい深いものになっていると思っている。一長一短だと感じながら、漢字に没頭した。10年くらい前だった。今でも書き始めたら筆が止まらないが、きりがないのでやめておく。

もう1つ没頭できるのは、DVDの録画。ただ、妻には「DVDは録るだけ録っておしまい。観ないよね」と呆れられる。言い返せない。実際、録り貯めたDVDはたぶん1000枚を超えた。そのうち、観たのは200枚くらい。ただ、その録画予約しているとき、そして良い番組が録画できたとき、その余韻に浸る。至福のときだ。

そう、没頭するとき、言い知れぬ幸福感がみなぎる。没頭の効用はたぶんそういうところにある。だから、実質、没頭の結果、得られる成果物はさして重要でない。そんな風に思う。ただ、時間を忘れることの弊害はよく理解しなきゃいけない。

2012年10月22日記す